

2026年度 文学部聴講生

講義要項

(社会学専攻抜粋)

中央大学 文学部

2026.4 - 2027.3

科目名: 社会調査の基礎／社会調査法(1)(基礎)

担当教員: 熊本 博之

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 水2

配当年次: 1年次配当

科目ナンバー: LE-SC1-K111

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:55:1

更新者: AC8199

更新日時: 2025-11-19 08:51:5

**授業形式**

すべての授業回について、面接授業を行います。

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

社会学研究において、理論と実証とは車の両輪の関係にある。このうち実証を行う上で不可欠なのが社会調査である。この科目では、社会調査の基本について講義する。社会調査が求められる背景、調査手法の発展の歴史、社会調査を実施する際に遵守すべきルールについて学んだ上で、アンケート調査やフィールドワークの実施方法など、具体的な社会調査の手法について講義する。なおこの講義は社会調査士カリキュラムのA科目「社会調査の基本的事項に関する科目」(必修科目)に該当する。社会調査士資格の取得を目指す学生は必ず履修しなければならない。

**科目目的**

社会調査の歴史、社会調査を実施する上で気をつけるべき倫理事項について理解すること。  
量的調査の仕組みを理解し、アンケートの質問文作成、および仮説構築ができるようになること。  
質的調査の仕組みを理解し、具体的な手法について理解すること。

**到達目標**

この科目では、以下を到達目標とします。

- ・リサーチリテラシーを身につけ、社会調査の結果を読み解くことができるようになること。
- ・調査仮説をたて、仮説を検証するために必要な質問文と選択肢を作成できるようになること。
- ・社会調査の社会的な必要性和意義について説明できるようになること。

**授業計画と内容**

- 第1回 社会調査を学ぶ意味:リサーチリテラシーの修得
- 第2回 社会調査の歴史
- 第3回 社会調査における倫理
- 第4回 社会調査を企画する①問いをたてる
- 第5回 社会調査を企画する②仮説をたてる
- 第6回 調査票の作成①調査の設計
- 第7回 調査票の作成②質問文と選択肢
- 第8回 調査票の作成③調査票の実際
- 第9回 量的調査を理解する①悉皆調査と標本調査
- 第10回 量的調査を理解する②サンプリングの手法
- 第11回 量的調査を理解する③質問紙調査とWeb調査
- 第12回 量的調査を理解する④憲法意識調査に見る世論の実態
- 第13回 質的調査を理解する①質的調査の技法と目的
- 第14回 質的調査を理解する②質的調査の実際

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	50%	講義後にmanabaで小テスト(5点×10回)を実施する。
期末試験	0%	
レポート	30%	調査課題に沿った仮説をたて、仮説を検証するために必要な質問文と選択肢を作成し、レポートとして提出する。
平常点	20%	リアクションペーパーの提出に応じて最大20点で評価し、平常点とする。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク
- ✓ その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

フィードバックペーパーで質問を受け付け、次回講義で回答する。

### 授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー  
タブレット端末  
その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業中にmanabaやGoogleフォームのアンケートを行うことで、社会調査の実際を体感する。

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。配布するレジュメを使用して講義を進める。  
参考文献として以下のものを挙げておく。  
大谷信介ほか『新・社会調査へのアプローチ―論理と方法』ミネルヴァ書房、2013  
岸政彦ほか『質的社会調査の方法―他者の合理性の理解社会学』有斐閣、2016

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名: 社会統計学の基礎

担当教員: 前田 悟志

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 木4

配当年次: 1年次配当

科目ナンバー: LE-SC1-K112

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:55:1

更新者: AD0964

更新日時: 2026-01-30 14:34:4

### 授業形式

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する。

毎年、4人のうち1人以上が単位を取得できずに再履修しており、また、再履修者の翌年の通過率は約50%。

※ ちなみに期末試験の点数と出席率は0.8以上の正の相関が示すことが多いです。

※ 出席チェックを誤魔化しても出席回数は成績に直接の関係がないため、誤魔化す意味はありません。

### 科目目的

- (1) 調査票調査とはどのような調査なのか、概要を知ります。
- (2) 調査票調査の実施・解析に必要な考え方や基礎的統計量について、知識を得ます。
- (3) 調査票調査を実際に行う技術を習得します。
- (4) 調査票調査の結果を分析し、解釈する方法を獲得します。

### 到達目標

調査票調査の基礎を押さえ、かつ実際に仮説と設問を作成し、データの分析ができるようになること

### 授業計画と内容

- 1 イントロダクション  
授業の進行計画および単位取得にかかわる重要な説明
- 2 質問紙調査の基礎知識  
・相関と因果
- 3 仮説とは: デュルケムの自殺論から  
・記述統計と推定統計  
・クロス表  
・カイ2乗検定
- 4 分析方法(2変数の関係)  
・変数の種類, 尺度の種類
- 5 分析方法(2変数の関係)  
・散布図, 相関係数, 疑似相関  
・無相関の検定
- 6 対象者選定(サンプリング方法各種)
- 7 仮説の作成
- 8 設問と選択肢の作成
- 9 調査票の作成
- 10 分析デモンストレーション
- 11 調査の依頼と実施について
- 12 データのコーディングなどについて

13まとめ

14理解度確認テスト

#### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

#### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

復習と宿題を中心にした課題を行います

#### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

#### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	95% 理解度を問うテスト
レポート	0%
平常点	0%
その他	5% 挙手をしての発言回数

#### 成績評価の方法・基準(備考)

グループワークの配点の設定はないが、グループワークへの参加は必須です。参加しなかった場合は単位ありません。

#### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

#### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

テスト採点后に解説

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

#### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

仮説の設定, 設問作成, 調査票の作成においてグループワークを実施

#### 授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

#### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

統計分析アプリケーションの使用

#### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

#### 実務経験に関連する授業内容

## テキスト・参考文献等

教材と資料: 主教材・配布資料は指定のクラウドフォルダからダウンロードしてください。  
クラウドフォルダのURLはmanabaに貼っておきます。

## オフィスアワー

## その他特記事項

## 参考URL

## 備考

---

科目名： 地域社会学／地域社会

担当教員： 新原 道信

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 水5

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-SC2-K307

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:55:2

更新者： AA0324

更新日時： 2025-12-04 21:48:2

### 授業形式

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

私たちにとって最も身近な場であるはずの「地域社会」は、いかにしてつくられてきたのか、現在どのような問題に直面しているのだろうか？そして、いかにつくりかえられていきうのだろうか？この科目では、特定の制度的・物理的な領域としての「地域(the local)」のみならず、人間の営みの場、歴史的な複数の関係の場として構成される「地域社会」／「地域」／「地」(土地・大地)を考えていきます。また、現場になかなか行けない中でも可能なデイリーワークとしてのフィールドワークを含め、人間と社会のうごきをとらえるフィールドワークの視点と方法を構想していきます。

### 科目目的

この科目の目的は、地域や地域社会そして人間に寄り添い、現実と格闘していくための理論と方法を、参加者それぞれが考えていくことです。そして、生存・生活のためのコミュニティづくり／異質性を含むコミュニティづくり／複数の地域社会の比較研究／自分のなかの歴史と社会をすくいとり／実践の場をともに創ることを始めることです。「地域社会学」以前の「地域社会」／「地域社会」以前の「地域」／「地域」の母体である「地」も含めて考える力を身につけることを目的とします。

### 到達目標

この科目の到達目標は2つです。

- ①これまでの地域社会学がどのような現実と格闘し、いかなる理論や方法を生み出してきたのか、基礎的な理解をつくること。
- ②現代の地域・地域社会における諸問題を見つけ(自分が見てこたえていたこと／社会から見てこたえていたことを自覚し)、新たな問いを立て領域横断的に考える力を身につけること。長期的には、自らの言葉で考え伝え、現代社会における立場の異なる人同士を結ぶメディアエーターとなるための力を身につけること。

### 授業計画と内容

この授業では、全体を序論・本論・結論の構成とします。本論①では、これまでの地域社会学の歩みを概観しながら、いかなる同時代の問題に対していかなる理論と方法が生み出されてきたのかを考えていきます。本論②では、テキストと事前学習を用いながら、現代の地域における人間や社会のうごきをつめるためのアプローチを考えていきます。本論①の後に、「中間レポート」や各回のコメントペーパーでは、その時点での理解を書きとめてもらい「最終レポート」の基礎とします。本論②の後に、「最終レポート」を提出してもらいます。ここでは、授業を通じて自分の「地域社会そのもの」への理解がどのように変化していったのか、「地域社会そのもの」をつめるためのフィールドワークをどのように試みたいか、計画・立案をしてもらいます(本論②の際にテキストの事前学習課題を課しますが、毎回の授業への参加を積み重ねてもらうことで最終レポートの負担は少なくなります)。

なお、「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)」拡大等の社会の状況の変化に即して、必要に応じて内容を組み替えていく予定です。

#### 授業計画

序論：社会のなかの「地域社会／地域／土地」を考える

第1回 イントロダクション

本論①：土地／地域／地域社会をつめるための理論と方法

第2回 「地域社会学」とは何か？ 戦後の地域開発と農村・都市社会学の接合

第3回 人々の意識と行動をつめる コミュニティと住民運動

第4回 「地域」／「地域社会」の再編① 人びとの移動とエスニシティ

第5回 「地域」／「地域社会」の再編② 高齢化社会における地域福祉

第6回 地域社会を構成するアクター①：住民組織・学校・自営業者

第7回 地域社会を構成するアクター②：NPO・ボランティア団体・エスニック集団

⇒序論と本論①で理解したことを「中間レポート」として提出する。

本論②：なかなかフィールドに出られない時の方法と実践(人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク)

第8回 人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク①デイリーワークとしてのフィールドワーク

第9回 人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク②土地／語りの記録を旅する

第10回 人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク③国境地域へのフィールドワーク

第11回 人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク④歴史の中の地域社会としての立川・砂川

第12回 人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク⑤都営大山団地での参与的行為調査より

結論部：人間と社会を捉えるために今後考えたいこと、調査したいことを立案する  
第13回 本論②をふりかえる——グループワークによる最終レポートの立案  
第14回 総括——土地／地域／地域社会を捉えるための自らの学問をつくり、実践する  
⇒「中間レポート」に本論②で理解したことを書き加え、「最終レポート」として提出する。

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ①授業時間に解説する範囲で、下記テキストの予習を課す場合がある。  
新原道信編著『人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク入門』(ミネルヴァ書房, 2022年)
- ②中間および期末レポートの作成と提出。  
\* 各回のコメントペーパーは、原則授業時間内に提出する。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	70%	授業の全体を通じて、2度のレポートの提出を課す。 ①授業の節目で提出を求められる中間レポートにおいて、授業内容をふまえ、論理構成力のある文章を作成する(30%)。 ②個々の事例と調査方法についての組み合わせが持つ意味について考察し、理解を深め、自らの調査研究を立案するかたちで、中間レポートに加筆する形で最終レポートを提出する(40%)。
平常点	30%	授業への実質あるコミットメント(出席・聴講、manabaの閲覧など)、授業内容をふまえたコメントペーパーの提出。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
- ✓ その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

この講義では、講義や日常生活というデイリーワーク・フィールドワークのなかで書き(writing in the field, writing while committed)、後に参照して振り返ることができる、「地域社会／地域／地」への理解の「基点(reference points/anchor points)」をつくることを一緒に試みます。

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

PC等の端末を各自が使用し、manabaの掲示板やwebexのチャット機能(オンラインの場合)などを活用する。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

## 【実務経験有の場合】実務経験の内容

## 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

《テキスト》新原道信編『人間と社会のうごきに出会う社会学的探求』(ミネルヴァ書房、2026年3月)／新原道信編著『人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク入門』(ミネルヴァ書房、2022年)。  
《参考文献》以田貝香門監修、町村敬志他編『地域社会学講座 第1巻 地域社会学の視座と方法』(東信堂、2006年)／古城利明監修、新原道信他編『地域社会学講座 第2巻 グローバリゼーション／ポスト・モダンと地域社会』(東信堂、2006年)／岩崎信彦・矢澤澄子監修、玉野和志他編『地域社会学講座 第3巻 地域社会の政策とガバナンス』(東信堂、2006年)／新原道信編著『“臨場・臨床の智”の工房——国境島嶼と都市公営団地のコミュニティ研究』(中央大学出版部、2019年)／新原道信編『惑星社会のフィールドワーク——内なる惑星とコミュニティに“出会う”』(中央大学出版部、2025年3月)。

### オフィスアワー

### その他特記事項

#### ■担当教員紹介■

これまでわたしは、地中海の島サルデーニャと沖縄の比較研究から始まって、地中海・イタリア・ヨーロッパ、大西洋、南米、アジア・太平洋の島々、都市・地域への旅／フィールドワークを、イタリアや日本の仲間と、“ともに(共に／伴って／友として)”してきました。その一方で、日本やイタリアのいくつかのコミュニティやグループ(都市公営団地や社会文化運動団体など)に長期間深くかかわる都市・地域・コミュニティ研究をしてきました。授業のなかでは、これまでの旅／フィールドワークで出会った土地や人々、“生身の社会(living society: city, community and region)”について、少しでもみなさんにお伝えできたらと思います。よろしくお願ひします。

### 参考URL

### 備考

科目名： 都市社会学／国際フィールドワーク論／現代社会研究(2) 担当教員： 新原 道信  
 履修年度： 2026 学期： 後期 開講曜日時限： 水5 配当年次： 2～4年次配当  
 科目ナンバー： LE-SC2-K308  
 登録者： admin 登録日時： 2025-10-02 06:55:2 更新者： AA0324 更新日時： 2025-12-04 16:59:4

### 授業形式

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

この科目では、社会調査の中でもとりわけ質的調査の各手法を学び、現代社会における都市のフィールドワークの理論と方法について講義を行います。授業前半では質的調査の歴史と各手法の概要を学び、授業後半では総合的なフィールドワークの具体的な実践について学びます。

### 科目目的

この科目の目的は、現代社会における都市・都市社会と地域、人間に寄り添うための質的調査／総合的なフィールドワークの理論と方法を学び、参加者各自が自ら調査を立案し実践する力を身につけることです。調査を通じて、国際的な「都市(the city)」／「都市」以前のまち／「まち」の母体である「地」(土地・大地)も含めて、現実の問題と格闘し、領域横断的に考え、捉える力を身につけることを目的とします。

### 到達目標

この科目の到達目標は以下の3つです。

- ①社会調査、とりわけ質的調査に関する知識を深め、調査計画の立案を自ら行い、データを活用・分析する基礎的な力を身につけること。
- ②これまでの都市社会学／都市におけるフィールドワーク研究がどのような現実と格闘し、いかなる理論や方法を生み出してきたのか、理解を深めること。
- ③都市の／国際的な質的調査を通じて新たな問いを立てる／自分の言葉で考える力を身につけ、長期的には現代社会の中で多様なアクターのメディアエ이터となるために必要な力を身につけること。

### 授業計画と内容

この科目は、講義形式とグループワークでの議論をはじめとする演習形式を交えて進めていく予定です。授業前半は、とりわけこれまでの都市社会学／都市のフィールドワークに関する理論と方法を学びながら、質的調査の各手法について講義形式を中心に学んでいきます。授業後半は、現代における国際的な都市におけるフィールドワークの実践の紹介を交えながら、参加者各自の理解と調査研究をまとめてもらい、レポートを提出してもらいます。

#### 授業計画

- 第1回 講義：ガイダンスと国際フィールドワークの理論的背景と調査方法論
- 第2回 講義：都市の国際フィールドワークの先行研究についての講義とグループワーク(1)
- 第3回 講義：都市の国際フィールドワークの先行研究についての講義とグループワーク(2)
- 第4回 講義と演習：都市の国際フィールドワークの調査計画立案・事前準備(とりわけ質的データ収集の方法)についての講義とグループワーク
- 第5回 講義と演習：収集した質的データ(記事、文書、映像、音楽、放送など)の分析方法についての講義とグループワーク
- 第6回 講義と演習：質的調査の認識論、調査における「フィールド」とは何か
- 第7回 講義と演習：フィールドリサーチの方法についての講義とグループワーク マニラ
- 第8回 講義と演習：聞き取り調査の手法についての講義とグループワーク ニューヨーク・ハーレム
- 第9回 講義と演習：ドキュメント分析の手法についての講義とグループワーク 立川
- 第10回 講義と演習：. 参与観察の手法についての講義とグループワーク 砂川・都営団地
- 第11回 グループワーク(1) (グループごとに選択した対象の予備的調査の分析結果について)
- 第12回 グループワーク(2) (グループごとに選択した対象の予備的調査の分析結果について)
- 第13回 グループワーク(3) (グループごとに選択した対象の予備的調査の分析結果について)
- 第14回 総括——各自が行った質的調査のレポート提出

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	70%	授業の全体を通じて、2度のレポートの提出を課す。 ①授業の節目で提出を求められる中間レポートにおいて、授業内容をふまえ、論理構成力のある文章を作成する(30%)。 ②個々の事例と調査方法についての組み合わせが持つ意味について考察し、理解を深め、自らの調査研究を立案するかたちで、中間レポートに加筆する形で最終レポートを提出する(40%)。
平常点	30%	授業への実質あるコミットメント(出席・聴講、manabaの閲覧など)、授業内容をふまえたコメントペーパーの提出。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

この講義では、講義や日常生活というデイリーワーク・フィールドワークのなかで書き(writing in the field, writing while committed)、後に参照して振り返ることができる、「都市」/「都市」以前の「まち」/「地」への理解の「基点(reference points/anchor points)」をつくることを一緒に試みます。

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

PC等の端末を各自が使用し、manabaの掲示板やwebexのチャット機能(オンラインの場合)などを活用する。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

《テキスト》新原道信編著『人間と社会のうごきに出会う社会学的探求』(ミネルヴァ書房、2026年3月)／新原道信編著『人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク入門』(ミネルヴァ書房、2022年)。

《参考文献》

谷富夫・山本努編『よくわかる質的社会調査 プロセス編』(ミネルヴァ書房、2010年)／谷富夫・山本努編『よくわかる質的社会調査 技法編』(ミネルヴァ書房、2010年)／佐藤健二『社会調査史のリテラシー——方法を読む社会学的想像力』(新曜社、2010年)／佐藤郁哉『フィールドワークの技法——問いを育てる、仮説を鍛える』(新曜社、2002年)／佐藤郁哉『社会調査の考え方 上・下』(東京大学出版会、2015年)／中筋直哉・五十嵐泰正編著『やわらかアカデミズム・(わかる)シリーズ よくわかる都市社会学』(ミネルヴァ書房、2013年)／松本康編『都市

社会学・入門』(有斐閣アルマ, 2014年)／新原道信編著『“臨場・臨床の智”の工房——国境島嶼と都市公営団地のコミュニティ研究』(中央大学出版部, 2019年)／新原道信編『惑星社会のフィールドワーク——内なる惑星とコミュニティに“出会う”』(中央大学出版部, 2025年3月)。

## オフィスアワー

## その他特記事項

### ■担当教員紹介■

これまでわたしは、地中海の島サルデーニャと沖縄の比較研究から始まって、地中海・イタリア・ヨーロッパ、大西洋、南米、アジア・太平洋の島々、都市・地域への旅／フィールドワークを、イタリアや日本の仲間と、“ともに(共に／伴って／友として)”してきました。その一方で、日本やイタリアのいくつかのコミュニティやグループ(都市公営団地や社会文化運動団体など)に長期間深くかかわる都市・地域・コミュニティ研究をしてきました。授業のなかでは、これまでの旅／フィールドワークで出会った土地や人々、“生身の社会(living society: city, community and region)”について、少しでもみなさんにお伝えできたらと思います。授業の進め方についても、みなさんの意見を取り入れていきます。よろしくお願ひします。

## 参考URL

## 備考

---

科目名: 社会学史(古典)／社会学史A

担当教員: 矢野 善郎

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 金1

配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-SC2-K309

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:55:2

更新者: AA0328

更新日時: 2025-12-28 09:09:4

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

社会学の歴史を学ぶということは、過去の社会学者の古びた・時代遅れの理屈を学ぶことではありません。過去の偉大な社会学者は、それぞれの時代にそれぞれの社会と対決して、今日の社会をじっくりと反省する問題意識をえるための尽きせぬインスピレーションの源にもなっているのです。

この講義では、「社会学」という科学が誕生して以来の、各時代・各地の偉大な(社会学)の様々な(パラダイム=思考の枠組み)を紹介するとともに、それが登場した時代背景や、他の時代の(社会学)、他の科学の分野(経済学・政治学・心理学・哲学 etc.)との影響関係を考えることを通して、私たちの社会そのものがたどってきた展開についても考察することにあります。

全体を通して現代の社会学の大きな見取り図が得られることを目指してもおります(それ故、公務員試験などにも役に立つと聞きます)。

教員としては、究極的には皆さん自身が鵜呑みにしてしまっている社会についての(パラダイム=思考の枠組み)を自分で組み替えていくきっかけにして欲しいと思っております。それ故、3つのやり方で講義に能動的に参加してもらいます。(1)ときどき講義に関連する課題に答え、小レポートを書いてもらいます。(2)学期末レポートでは、実際に社会学の傑作を読み、社会学者が生きていた時代背景について考えるレポートを書いてもらいます。(3)講義途中の質問・発言も積極的に歓迎します

**科目目的**

社会学史の講義を通して、社会学に必須の専門的学識と幅広い教養を身につけるだけでなく、幅広い社会学のパラダイムにふれ複眼的思考を養い、小レポート・期末レポートでは、主体性をもって自らの研究関心にとって重要な社会学者の作品にふれ、自分の意見をまとめるコミュニケーション力を身につけようことを目的とする。

**到達目標**

社会学に必須の社会学者の論とその背景について専門的学識と幅広い教養を身につけること

幅広い社会学のパラダイムにふれ複眼的思考を養うこと。

主体性をもって自らの研究関心にとって重要な社会学者の作品にふれ、自分の意見をまとめるコミュニケーション力を身につけること

**授業計画と内容**

- 1 社会学史の視点:パラダイムとは
- 2 社会学以前 アリストテレス
- 3 同 ホッブズ
- 4 同 アダム・スミス 功利主義
- 5 同 コント
- 6 同 トクヴィル
- 7 同 ヘーゲル
- 8 同 マルクス
- 9 同 ダーウィン スペンサー
- 10 デュルケム1 社会分業論 方法論
- 11 デュルケム2 自殺論
- 12 デュルケム3 宗教社会学
- 13 テンニース ジンメル
- 14 まとめ 社会学以前から社会学の成立へ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

講義に関わるプリントは全て事前に公開します。予習をして下さい。  
スライドも公開します  
数回に一度、講義に関連するレポート課題を出します。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	40% 期末レポート
平常点	60% 数回に一度、講義に関連するレポート課題を出します。その提出回数と質により、平常点とします。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

小レポートと、そのフィードバックを行います

### 授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaで小作文提出し、応答いたします。スライド等もmanabaで提供します

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

プリントを配ります。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL



科目名: 社会学史(現代)／社会学史B

担当教員: 矢野 善郎

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 金1

配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-SC2-K310

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:55:2

更新者: AA0328

更新日時: 2025-12-28 09:09:1

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

社会学の歴史を学ぶということは、過去の社会学者の古びた・時代遅れの理屈を学ぶことではありません。過去の偉大な社会学者は、それぞれの時代にそれぞれの社会と対決して、今日の社会をじっくりと反省する問題意識をえるための尽きせぬインスピレーションの源にもなっているのです。

この講義では、「社会学」という科学が誕生して以来の、各時代・各地の偉大な(社会学)の様々な(パラダイム=思考の枠組み)を紹介するとともに、それが登場した時代背景や、他の時代の(社会学)、他の科学の分野(経済学・政治学・心理学・哲学 etc.)との影響関係を考えることを通して、私たちの社会そのものがたどってきた展開についても考察することにあります。

全体を通して現代の社会学の大きな見取り図が得られることを目指してもおります(それ故、公務員試験などにも役に立つと聞きます)。

教員としては、究極的には皆さん自身が鵜呑みにしてしまっている社会についての(パラダイム=思考の枠組み)を自分で組み替えていくきっかけにして欲しいと思っております。それ故、3つのやり方で講義に能動的に参加してもらいます。(1)ときどき講義に関連する課題に答え、小レポートを書いてもらいます。(2)学期末レポートでは、実際に社会学の傑作を読み、社会学者が生きていた時代背景について考えるレポートを書いてもらいます。(3)講義途中の質問・発言も積極的に歓迎します

**科目目的**

社会学史の講義を通して、社会学に必須の専門的学識と幅広い教養を身につけるだけでなく、幅広い社会学のパラダイムにふれ複眼的思考を養い、小レポート・期末レポートでは、主体性をもって自らの研究関心にとって重要な社会学者の作品にふれ、自分の意見をまとめるコミュニケーション力を身につけようことを目的とする。

**到達目標**

社会学に必須の社会学者の論とその背景について専門的学識と幅広い教養を身につけること

幅広い社会学のパラダイムにふれ複眼的思考を養うこと。

主体性をもって自らの研究関心にとって重要な社会学者の作品にふれ、自分の意見をまとめるコミュニケーション力を身につけること

**授業計画と内容**

- 1 ヴェーバー1 理解社会学
- 2 ヴェーバー2 宗教社会学
- 3 ヴェーバー3 支配社会学
- 4 シカゴ学派
- 5 パレート
- 6 ウェッブ夫妻
- 7 初期の日本社会学
- 8 パーソンズ マートン ラザースフェルト
- 9 戦後の社会学 近代化論
- 10 知識社会学 批判社会学
- 11 シンボリック相互行為論
- 12 ブルデュー フーコー
- 13 ハーバーマス エリアス ルーマン / ギデンズ
- 14 現代社会学から未来の社会学へ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

講義に関わるプリントは全て事前に公開します。予習をして下さい。

使用したスライドも公開します  
数回に一度、講義に関連するレポート課題を出します。

#### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

#### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	40% 学期末レポート
平常点	60% 数回に一度、講義に関連するレポート課題を出します。その提出回数と質により、平常点とします。
その他	0%

#### 成績評価の方法・基準(備考)

#### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

#### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク

- ✓ その他
- 実施しない

#### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

小レポートと、そのフィードバックを行います

#### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
タブレット端末

- ✓ その他
- 実施しない

#### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

すべての回でスライド等で授業理解の補助を図ります。manabaでフィードバックを行います

#### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

#### 実務経験に関連する授業内容

#### テキスト・参考文献等

プリントを配ります。

#### オフィスアワー

#### その他特記事項

#### 参考URL



**科目名： 宗教社会学／宗教****担当教員： 平野 直子**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 月2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-SC2-K311

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:2

更新者：AD0481

更新日時：2026-01-12 23:48:0

**授業形式**

すべての授業回について、面接授業を行います。

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

この講義では、宗教社会学の視点を用い、現代日本社会における広い意味での「宗教」に関するトピック―新宗教、スピリチュアル、カルト問題、政治と宗教、お墓とお葬式、グローバリゼーションなど―を見ていく。またそれにより、われわれの生きる社会―「近代社会」と呼ばれる社会のバージョン―について考察を深めていく。

各回ではテーマごとに講義を行い、それぞれについて基本的な知識や背景を示すとともに、どのような社会学的視点が有効か、何が論点・問題とされているのかを解説していく。

**科目目的**

現代日本社会において(広い意味での)「宗教」に関わる問題にはどのようなものがあるのかを知り、それぞれについての社会学的な考え方を理解し、習得すること。また異なる信条や文化を持つ人々との共生について深く思考し、生じ得る問題についてお互いを尊重した議論ができるようになることを目的とする。

**到達目標**

- ・現代日本の「宗教」「宗教文化」に関する問題にどのようなものがあり、自らの日常生活・社会生活にどのように関わっているか／関わりうるかを把握し、それらに対して正確な知識を身につけること。
- ・上記を社会学の概念や枠組みを用いて論じられるようになること。

**授業計画と内容**

- 第1回 オリエンテーション:宗教とは何か／宗教社会学について
- 第2回 日本社会における宗教の基礎知識
- 第3回 新宗教と日本の「近代」(1)「近代化」と新宗教
- 第4回 新宗教と日本の「近代」(2)戦後日本社会と新宗教
- 第5回 現代日本社会と宗教(1)消費社会における宗教と「スピリチュアル」その1  
心理学化／セラピー文化
- 第6回 現代日本社会と宗教(2)消費社会における宗教と「スピリチュアル」その2  
消費社会と「スピリチュアル」
- 第7回 現代日本社会と宗教(3)宗教と社会活動
- 第8回 現代日本社会と宗教(4)巡礼文化とツーリズム／消費社会と宗教
- 第9回 現代日本社会と宗教(5)変わりゆく葬儀・墓
- 第10回 現代日本社会と宗教(6)グローバル化と宗教／世俗化論再考
- 第11回 「カルト問題」と社会
- 第12回 現代日本における宗教と政治
- 第13回 教育における宗教と道徳
- 第14回 現代日本社会と宗教(到達度確認)

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

1. 各回の内容は、指定テキストの各章とおおよそ対応している。授業前にアップロードされる予習教材とともに、あらかじめ読んでおくこと。
2. 授業終了後、指定された時間までに授業中に示した質問への回答をResponにて提出すること。

**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

## 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	80%	社会学的な概念や枠組みを用いて、現代日本社会の宗教に関わる諸現象の説明を行うことができるかを評価する。
レポート	0%	
平常点	20%	毎回の課題の提出状況や内容を評価する。
その他	0%	

## 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

課題の回答への講評や、質問への回答は、manabaに文書でアップロードする。講義内容にも適宜取り入れる。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

受講生から課題として提出された講義内容についての見解や感想を、予習用資料や授業内で毎回共有することで、ディスカッションに近いやり取りが行われる。

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト  
『宗教と社会のフロンティア—宗教社会学からみる現代日本—』(高橋典史・塚田穂高・岡本亮輔編著、勁草書房、2012年)  
※その他は、授業内で適宜紹介する

### オフィスアワー

### その他特記事項

- ・われわれの生きる社会は「近代社会」という、特有の形式を持った社会の一つです。宗教を社会的に見ることは、宗教だけでなく「近代社会」がどのようなものか、われわれの社会がどのようなものかを深く考えることにつながります。講義で扱うトピックは身近なものが多いですが、全て上記のような問題意識につながっていることを頭に置きながら受講してください。
- ・教科書は各トピックについて詳細に知るためには不可欠です。
- ・教員と受講生のやり取りには、主にmanabaの個別指導コレクションを使用します。

### 参考URL

**備考**

この科目はオンライン形式です。

---

**科目名：文化社会学／文化****担当教員：後藤 美緒**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：月1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-SC2-K312

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:2

更新者：AD0665

更新日時：2026-01-05 15:34:2

**授業形式**

授業は対面の講義形式で展開します。  
ただし、毎回、responを用いた実態確認や意見の表明など受講生の積極的な参加をしていただきます。

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

文化現象は、それだけで完全に独立して存在しているわけではありません。古くはレコード、ラジオ、映画をはじめ、現代ではテレビやインターネットといったさまざまなマスメディアと互いに及ぼし合うとともに、私達の日常生活と分かちがたく結びついています。そしてそれゆえに、想像力の発露であると同時に、統治の手段となることもあります。それは、国家という枠組みを形成／越え出ること、あるいは集団を組織化／解体、再組織化することがあります。

このような社会的背景、メディアとの関わり、日常生活とのかかわりに注意をはらいつつ、日本が近代化した19世紀初頭から現代までの文化の在り方を考察していきます。とくにこの授業では、参加者とともに「読書」という経験に着目し、文字と声、平時と有事という区分を交差させながら検討することで、私たちが今立っている社会の成り立ちについて考えていきます。

**科目目的**

この科目は、学生が学位授与の方針で示す、「複眼的思考」・「コミュニケーション力」・「主体性」を習得することを目的としています。

**到達目標**

- ・現代社会の身近な文化現象を学問的な視点からとらえ、発生する構造を他者に説明できるようになること(毎回の課題での到達目標・期末試験での到達目標)。
- ・現代社会と過去の出来事の連続性・非連続性(断絶)、差異・共通点について、個々のメディアの特性に留意しながら、説明できるようになること(毎回の課題での到達目標・期末試験での到達目標)。
- ・他者と自己の意見を区別し、自らの考えを整理して、論理的に記述できること(期末試験での到達目標)

**授業計画と内容**

- 第1回：イントロダクション：読書と労働という若年層の二つの「悩み」
- 第2回：文化の作り手は誰か？：限界芸術論
- 第3回：映像から考える：映画『舟を編む』の示す統治と開放性
- 第4回：読書がつくる文化：読者共同体
- 第5回：近代日本の都市とメディア・リテラシー
- 第6回：「読書国民」の誕生とその展開
- 第7回：学生たちの読書実践：社会的属性を支える読書・超える読書
- 第8回：流行歌の誕生：聴くことをめぐる力学
- 第9回：ラジオに現れた「漫才」：知識人と大衆文化の接近
- 第10回：〈内・外〉の／と図書館：国境と読書装置
- 第11回：兵士たちの読書経験(米)：戦地の図書館
- 第12回：兵士たちの読書経験(日)：「慰問袋」のなかの出版物
- 第13回：全体総括：現代の読者共同体をめぐって
- 第14回：試験

みなさんの関心や授業の進展を考慮して、適宜、順番を変更することがあります。

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出

その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業内で提示される課題について、既定の時刻までに完成させて提出すること(毎回200字程度)。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	40%	授業で紹介した概念や発想が理解できているか、獲得した知識を現代社会の具体的な事例に応用し分析できるかなどを評価します。
レポート	0%	
平常点	30%	responで発した問いに対して、適切な時間内に、適切な内容の回答しているかどうかで評価します。
その他	30%	授業内で示す課題に対し、授業の内容を踏まえたうえで考察し、期日までに形式を守って提出されているかどうかで評価します。

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク
- ✓ その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

- ・授業冒頭において前回の課題について講評します。
- ・意見の表明や実態確認のために、毎回、responを用います。

### 授業におけるICTの活用方法

クlickカー

タブレット端末

- ✓ その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業ではresponを用いた意見の集約や実態確認をしながら授業を進めていきます。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストはとくに指定しません(manabaで資料を事前に共有します)。  
参考文献については授業中に適宜紹介します。

以下の文献は講義全体の基調となっていますので、適宜、参照してください。  
キャロリン・マーヴィン、吉見俊哉・水越伸・伊藤昌亮訳『古いメディアが新しくなった時—19世紀末社会と電気テクノロジー』、2003年。

## オフィスアワー

## その他特記事項

- ・理解を深めるため、三浦しをん原作『舟を編む』(小説・映画のいずれか)を事前に確認することを期待します。
- ・資料の配布、課題の提出はmanabaを用います。
- ・連絡先は初回の授業でお伝えします。授業開始前までに連絡したい場合は、個別指導コレクションを使用してください。
- ・respon、授業後の課題の未提出がそれぞれ4回以上ある場合は、期末試験の受験資格を失います。

## 参考URL

## 備考

---

**科目名： 家族社会学／家族****担当教員： 山田 昌弘**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：金2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-SC2-K313

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:2

更新者：AA0825

更新日時：2025-11-19 14:53:4

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

「現代家族の構造転換」について講義する。家族は、今、大きな構造転換期にある。夫は仕事、妻は主に家事で豊かさをめざすという戦後家族モデルは、工業社会で夫の収入が安定していた時代に、適合的な家族モデルだった。それが、ポスト工業社会の到来で経済が不安定化する。そして、家族の領域にも個人化の波が押し寄せ、不安定化すると共に、従来のモデルが揺らぎだしている。その様相を解明する。

1. 家族定義論の射程「ペットは家族か」という問いかけを出発点に、家族は、選択不可能、解消困難な関係であることを説明し、それが家族への欲望につながることを示す。2. 近代社会の構造転換という視点近代家族における家族の二つの役割を示し、うち、家族の個人的機能、社会的機能、その不安定性について論じる。3. 戦後家族モデルの形成戦後家族モデルがたいへんうまく機能した条件について考察する。4. 戦後家族モデルの行き詰まり戦後家族モデルが行き詰まり、1998年以降、解体の危機にあることを論じる。

**科目目的**

現代社会における様々な家族現象を、社会的に分析できる力をつける。  
現代日本社会に生じている家族の問題現象を読み解く力をつける。  
将来の家族生活を営むに当たって、注意すべき点を知る。

**到達目標**

現代社会における様々な家族にかかわる問題現象を理解し、社会的に分析できるよう、様々な観点を身につける。  
現代家族に起きている現象を歴史的な脈絡の中で理解できるようにする。  
現将来の家族生活を営むに当たって、注意すべき点を理解する。

**授業計画と内容**

1. リアリストは嫌われる一家族を社会学すること
2. 家族ペットと児童虐待
3. 近代家族の変容 選択肢の拡大をめぐる
4. 婚活、おひとりさま、そして、無縁社会
5. 近代社会の中での家族の位置
6. 近代家族の特徴
7. 存在論的不安
8. 生活保障としての家族
9. 愛情と生活保障の結合
10. 日本における近代家族の形成
11. 戦後家族モデル
12. 戦後家族モデルの微修正
13. 近代社会の構造転換
14. 近代社会の行き詰まりと新しい家族形態の試み

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

### 授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	70%	授業内容を理解していること。 論理的に筋が通っていること。 独自の視点をもって、回答していること。
レポート	20%	授業内容を踏まえていること 課題図書を読み込んでいること 独自の視点をもって論じていること
平常点	10%	出席票、アンケートの回答による参加度
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

中間レポート、試験、どちらかでも未提出のものは、採点の対象としない。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク
- ✓ その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業の感想やアンケート、質問を題材として、翌週応答して授業を行う。

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

レジュメをmanabaで配布する。  
中間レポート課題図書(未定 1冊)  
授業中に指示する。

参考文献  
山田昌弘『希望格差社会、それから、幸福に衰退する日本の20年』東洋経済新報社  
山田昌弘『単身リスク』朝日新聞出版  
山田昌弘『迷走する家族』有斐閣

オフィスアワー

その他特記事項

レポート課題図書を1冊購入することを求める。

参考URL

備考

---

科目名： 歴史社会学／社会政策／現代社会研究(7)

担当教員： 天田 城介

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 火4

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-SC2-K315

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:55:2

更新者： AA1538

更新日時： 2026-01-15 09:27:5

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

超高齢社会／人口減少社会／ポスト経済成長時代において立ち現れている諸問題について経験的データをもとに的確に理解すると同時に、老いや高齢化をめぐる社会の変化の歴史的ダイナミズムを析出したうえで、未曾有の超高齢社会のもとでの新たな生存保障システムを設計し、それを実現可能とする社会を歴史社会的に構想するものとする。

**科目目的**

超高齢社会において立ち現れている諸問題——少子高齢化、人口減少、労働者人口の減少／年金生活者の増大、世代間関係の変容、貧困の変容(女性や子どもの貧困)、生活困窮層の増大、生存保障システムの変容、戦後日本型分配システムの機能不全など——について経験的データをもとに的確に理解すると同時に、老いや高齢化をめぐる社会の変化の歴史的ダイナミズムを析出したうえで、未曾有の超高齢社会のもとでの生存保障システムを設計し、それを実現可能とする社会を社会的に構想するものとする。  
戦前から戦後、そして現在にいたるまでの歴史的変容をダイナミックに捉えたうえで、「超高齢社会／人口減少社会／ポスト経済成長時代」と呼ばれる今日の社会において立ち現れている諸問題がいかにかに形作られてきたのかを分析する。

**到達目標**

- ①ポスト経済成長時代における超高齢社会／人口減少社会において立ち現れている諸問題について経験的データをもとに的確に理解することができる。
- ②ポスト経済成長時代における超高齢社会／人口減少社会がいかなる歴史的・時代的文脈のもとで変容しているのかについて歴史社会学の視点から科学的に分析することができる。
- ③老いや高齢化をめぐる社会の変化の歴史的ダイナミズムを析出したうえで、ポスト経済成長時代における超高齢社会／人口減少社会のもとでの新たな社会を構想することができる。

**授業計画と内容**

- 第01回 超高齢社会／人口減少社会の社会学・1
- 第02回 超高齢社会／人口減少社会の社会学・2
- 第03回 ポスト経済成長時代の超高齢社会／人口減少社会の社会学・1
- 第04回 ポスト経済成長時代の超高齢社会／人口減少社会の社会学・2
- 第05回 生存の歴史社会学・1——老いの現代史 明治～現在
- 第06回 生存の歴史社会学・2——戦後日本型生存保障システム
- 第07回 地域間再配分の現在・1——戦後日本型生存保障システムからの脱却
- 第08回 地域間再配分の現在・2——戦後日本型生存保障システムからの脱却
- 第09回 世代間関係をめぐる現在——団塊世代の世代間関係を中心に
- 第10回 「女性の貧困」の歴史社会学
- 第11回 少子化／人口減少のもとでの社会構想
- 第12回 ポスト経済成長時代の超高齢社会／人口減少社会における社会構想・1
- 第13回 ポスト経済成長時代の超高齢社会／人口減少社会における社会構想・2
- 第14回 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

毎回授業前にその前の回に配布した資料やレジュメに必ず目を通した上で出席すること。また、授業の最後に提示する課題に必ず取り組むこと。加えて、授業で紹介した参考文献等も積極的に読み込むようにしてください。

**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	85%	小レポート(45%)、学期末レポート(40%)。授業終了後の指定日時までに提出する小レポートを期間中3回実施します。学期末レポートは4,000字以上のものになります。
平常点	15%	コメント・ペーパーなどを平常点(15%)とします。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

小レポート(45%)、学期末レポート(40%)、平常点(15%)をスコア化して、厳正に評価します。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)  
 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
  - ✓ グループワーク
  - プレゼンテーション
  - 実習、フィールドワーク
  - その他
  - 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- ✓ タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業において使用するパワーポイント資料はmanabaの「コースニュース」等を通じて受講者全員に配布し、「コンテンツ」にも格納することで、いつでも閲覧できる状況とする。また、自主学習が可能なように、その他の資料も閲覧できる環境にする。加えて、manabaの「コレクション」を通じて個別連絡ができるようにし、manabaの「掲示板」を通じて基本情報は共有できるようにする。

なお、合理的配慮等が認められた場合には、ハイブリッド形式での授業運営を行うものとする。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

授業内容については資料やレジュメを毎回配布しますので、テキストは使用しません。参考文献は毎回レジュメ等で示します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

なし

### 参考URL



**科目名： 社会階層論／社会階層****担当教員： 高見 具広**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：木5

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-SC2-K316

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:2

更新者：AD0154

更新日時：2025-11-17 19:13:0

**授業形式**

すべての授業回について、対面授業の形式で行います。

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

社会階層論の内容を講義します。社会では、様々な格差や不平等について活発な議論が行われています。では、実際どのような格差があり、それがなぜ問題なのでしょう。社会学は伝統的に、階層構造の観点から社会の状況を扱い、格差・不平等を分析してきました。本講義では、経済的格差、職業階層、世代間移動、ジェンダー格差、出身階層と学歴形成といった、社会階層論の主要なトピックを扱うことで、社会階層論の理論と実際について深く理解することを目指します。

**科目目的**

社会階層論の視点から、現代日本の社会状況や問題点について理解し、問題意識を深めること。

**到達目標**

社会に存在する様々な格差や不平等について、その背景・原因を含めて他者に説明できるようになること。また、格差・不平等に関する社会の課題を、社会階層論の観点から深く理解し、解決する方策を自ら提案できるようになること。

**授業計画と内容**

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 経済的格差と貧困
- 第3回 正規／非正規雇用と賃金格差
- 第4回 職業階層
- 第5回 世代間移動
- 第6回 職業キャリアにおける男女格差
- 第7回 ライフコース・ライフスタイルの多様性と格差
- 第8回 学歴社会を考える
- 第9回 出身階層による学歴格差
- 第10回 能力主義社会における環境要因
- 第11回 地域間格差
- 第12回 社会意識から階層構造を考える
- 第13回 追加的論点
- 第14回 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

授業レジュメをもとに復習を行うほか、授業時間内に紹介する文献やデータについて、可能な限り各自でも学習してください。

**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験 60% 学修内容をふまえ、自らの思索が論理的・説得的に書かれているかを評価します。

レポート 0%

平常点	40%	対面授業におけるコメントペーパーの提出状況と内容から評価します。(提出状況が極端に悪い場合は、単位を与えないので注意すること)
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

担当教員は、独立行政法人労働政策研究・研修機構(JILPT)において、国の労働政策に関わる調査研究に携わっている。

### 実務経験に関連する授業内容

担当教員が労働政策研究・研修機構(JILPT)で携わっている調査研究では、社会の格差・不平等に関わるテーマを多く扱っている。例えば、労働条件の雇用形態間格差、職業キャリアの男女間格差、雇用機会の地域間格差などがある。こうした調査研究の成果について、講義中に積極的に紹介したい。

### テキスト・参考文献等

特定の教科書は指定せず、レジュメをもとに進めます。

なお、社会階層論の全体像を理解するのに適した書籍として、以下の文献を薦めます。  
平沢和司(2021)『格差の社会学入門 [第2版] 一学歴と階層から考える』北海道大学出版会。  
原純輔・盛山和夫(1999)『社会階層—豊かさの中の不平等』東京大学出版会。

### オフィスアワー

### その他特記事項

社会階層論が扱う格差・不平等は、近年ますます重要性を増しているテーマであり、難しい課題も多いですが、意欲ある受講生を歓迎したい。

### 参考URL

### 備考

科目名： 産業・労働の社会学／産業・労働／現代社会研究(4)

担当教員： 田島 博実

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 木4

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-SC2-K317

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:55:2

更新者： AB3464

更新日時： 2026-01-04 14:19:5

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

(1)産業社会の変動(高度産業化、脱工業化、情報化、サービス経済化、グローバル化)と、経済成長や景気変動、雇用情勢の動向を把握します。(2)企業などの組織における雇用と人的資源管理の仕組みについて、「日本的経営」「日本型雇用システム」の観点から考察します。(3)雇用・就業の実態、勤労者の働き方の現状と課題を考えます。以上の3点を中心に、現代の産業と企業、雇用・就業の実例(映像等)を示して、できるだけ具体的な考察を行います。

**科目目的**

この科目は、学位授与の方針で示す、産業社会を理解するための専門的学識や教養、社会的課題に対して複眼的かつ柔軟に考察する思考力、主体的に学び続ける姿勢を養おうとするものです。

**到達目標**

この科目は、第1に、現実の経済環境や産業社会に向き合い、理解するための教養や思考力を身につけることを目的とするものです。第2に、雇用・労働問題という現代のクリティカルな課題に対して、複眼的かつ柔軟な観点からアプローチし考察できるようにすることを目指します。第3に、卒業後の働き方、社会生活において、企業等の組織と主体的に関わり、学び続ける姿勢を養おうとするものです。

**授業計画と内容**

1. オリエンテーション、産業・労働研究の要点、テキスト・参考文献
2. 産業社会の成立と変動、高度産業化、脱工業化、情報化、サービス経済化の進展
3. 技術革新・情報化・デジタル化と、産業構造、就業構造、勤労者の働き方の変化
4. 「日本的経営」「日本型雇用システム」の成立とその背景
5. 長期安定雇用と企業(職場)コミュニティの形成
6. 雇用調整と長期雇用システムの動揺—組織と個人の変化
7. 人事処遇・報酬の制度—年功制の確立と能力主義(職能資格制度)への移行
8. 能力主義人事の新展開—コンピテンシー評価、成果主義、職務等級制度
9. 人材育成(教育訓練)の方法と職業能力の開発・向上
10. キャリア形成と勤労者の職業人生設計(キャリアデザイン)
11. ダイバーシティ・マネジメントの考え方と取り組み
12. 雇用・就業形態の多様化と非正規雇用の働き方
13. 男女雇用機会均等の政策と課題
14. 人的資源管理の総括的検討—国際比較の観点

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

## 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	講義・授業の主要テーマに関するまとめと考察。学習内容の理解、課題に対する考察、論理的展開を評価基準とします。
レポート	30%	講義・授業の内容の検討、考察に関するレポート課題の提出。
平常点	10%	講義・授業の内容に関する感想または疑問点の提出。
その他	0%	

## 成績評価の方法・基準(備考)

授業の参加、態度に関する評価を考慮する場合があります。

## 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

## 課題や試験のフィードバック方法(その他)

## アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

## アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

## 授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

## 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

## 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

## 【実務経験有の場合】実務経験の内容

担当教員は民間のシンクタンク・調査研究機関(産業社会研究センター、雇用開発センター)で、労働政策、労働問題の主要テーマに関するリサーチおよびコンサルテーションに携わってきました。

## 実務経験に関連する授業内容

労働政策、労働問題の主要研究テーマとして、日本企業の雇用システム、人事処遇制度、雇用調整と労働移動、高齢者雇用などを扱っており、これらの経験や知見を活かした講義・授業を行います。

## テキスト・参考文献等

テキストとして、時井聡・田島博実編著『現代の企業組織と人間』学文社、2009年、を使用します。  
参考文献として、小川慎一・山田信行・金野美奈子・山下充『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』有斐閣、上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房、佐藤博樹・佐藤厚編『仕事の社会学 改訂版』有斐閣、宮本又郎他『日本経営史(新版)』有斐閣、橋本寿朗他『現代日本経済』有斐閣、を挙げます。あげます。

## オフィスアワー

## その他特記事項

授業態度として、文献(テキスト)、レジュメ、資料の精読とともに、口頭の説明を筆記、理解して、自分の学習ノートを作成することが望ましいです。

また、授業中のスマホの使用、私語などを注意することがあります。

教員に質問や連絡をしたい場合は、田島博実のメールアドレス(tajihiro@white.plala.or.jp)またはmanabaの掲示板でメッセージを伝えてください。

## 参考URL



科目名: 社会問題／現代社会研究(9)

担当教員: 天田 城介

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 火3

配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-SC2-K318

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:55:2

更新者: AA1538

更新日時: 2026-01-15 09:29:2

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

現代社会における障害や病いをめぐる諸問題／諸現象を具体的に読み解きながら、障害や病いの社会学的含意を考察しつつ、障害や病いをめぐる社会制度／社会システムについて社会学的に分析し、ありべき社会をダイナミックに構想する。

**科目目的**

現代社会における障害や病いをめぐる生じているさまざまな現実を社会学の視点から解読することを目的とする。私たちの社会において生じている障害や病いをめぐる諸問題／諸現象がなにゆえ生じているのかを社会学の視点から読み解き、私たちの社会における差別・不平等を批判的に捉えることができることが最終的な到達目標となる。

**到達目標**

- ①現代社会における障害や病いをめぐる生じているさまざまな現実を経験的データをもとに的確に理解することができる。
- ②私たちの社会において生じている障害や病いをめぐる諸問題／諸現象がなにゆえ生じているのかを社会学の視点から分析することができる。
- ③私たちの社会における差別・不平等・排除を社会学の視点から批判的に捉えることができる。

**授業計画と内容**

- 第1回 障害をめぐる社会学
- 第2回 当事者たちの学問のせり出し
- 第3回 障害者たちの社会運動の歴史・1
- 第4回 障害者たちの社会運動の歴史・2
- 第5回 当事者たちが語る自らの世界・1
- 第6回 当事者たちが語る自らの世界・2
- 第7回 当事者たちが自らの世界を語るの意味・1
- 第8回 当事者たちが自らの世界を語るの意味・2
- 第9回 障害学の問い・1——分配する国家
- 第10回 障害学の問い・2——優生学／優生思想
- 第11回 優生学／優生思想と闘うことを考える・1
- 第12回 優生学／優生思想と闘うことを考える・2
- 第13回 社会構想の社会学
- 第14回 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

毎回授業前にその前の回に配布した資料やレジュメに必ず目を通した上で出席すること。また、授業の最後に提示する課題に必ず取り組むこと。加えて、授業で紹介した参考文献等も積極的に読み込むようにしてください。

**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	85% 小レポート(45%) + 学期末レポート(40%)で評価します。授業終了後の指定日時までに提出する小レポートを期間中3回実施します。学期末レポートは4,000字以上のものになります。
平常点	15% コメント・ペーパーなどを平常点(15%)とします。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

小レポート(45%)、学期末レポート(40%)、平常点(15%)をスコア化して、厳正に評価します。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- ✓ タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業において使用するパワーポイント資料はmanabaの「コースニュース」等を通じて受講者全員に配布し、「コンテンツ」にも格納することで、いつでも閲覧できる状況とする。また、自主学習が可能なように、その他の資料も閲覧できる環境にする。加えて、manabaの「コレクション」を通じて個別連絡ができるようにし、manabaの「掲示板」を通じて基本情報は共有できるようにする。

なお、合理的配慮等が認められた場合には、ハイブリッド形式での授業運営を行うものとする。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

授業内容については資料やレジュメを毎回配布しますので、テキストは使用しません。参考文献は毎回レジュメ等で示します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名： 応用社会調査法(量的)／社会調査法(2)(量的調査)

担当教員： 鈴木 恭子

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 火3

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-SC2-K319

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:55:2

更新者： AA2534

更新日時： 2026-01-06 14:33:5

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

本授業では、社会調査データを用いた基礎的な多変量解析について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを学習します。

(1) 量的調査の分析で何ができるかと分析に必要な基本的な考え方を学びます。次に(2) 統計的推測の基考え方について、具体的な例を用いながら学びます。さらに(3) 線形回帰分析について、その基本的な考え方と統計ソフトを用いた実装について学びます。最後に(4) 重回帰分析について、統計ソフトを用いた実装方法を学びます。

**科目目的**

本科目の目的は、基本的な統計的手法の理解を深め、実際に社会調査データを用いた分析のためのスキルを身につけることです。それを通じて、量的手法を用いた研究論文や学術書籍の内容を正確に理解できるようになること、また自らデータに積極的にアクセスして積極的に分析を実施できるようになることを目指します。たしかに統計的知識と量的分析のスキルの獲得を通じて、身近な情報を批判的に解釈できるようになることを目指します。

**到達目標**

社会調査データを用いた多変量解析について、基礎的な考え方や理論を理解するとともに、実践的な分析の仕方を習得します。具体的には以下を到達目標とします。

(1) 量的分析でどのような問題にアプローチできるかを理解する(2) 多変量解析に必要な、統計学・確率論の基本的な考え方を理解する(3) 線形回帰の考え方を理解し、統計ソフトを用いて実際に分析できるようにする(4) 重回帰分析とロジスティック回帰について、基本的な考え方と初歩的な実装ができるようにする

**授業計画と内容**

以下の流れで進めます。

## I. イントロダクション

1) データ分析で何ができるか

## II. 記述統計と確率

2) 統計データをいかに記述できるか

3) 確率・確率分布とはなにか

## III. 統計的推測

4) 点推定と信頼区間

5) カテゴリカルデータ: 母比率の推定・カイ二乗検定

6) 量的データ: 平均差の検定・t検定

## III. 重回帰分析

7) 分散分析と重回帰分析

8) 残差・相関

9) 最小二乗回帰

10) 重回帰の推測

11) 重回帰とモデル選択

12) 重回帰の解釈

## IV. 総括

13) 応用的分析手法

14) 社会調査データを用いた実習

### 授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ・毎回の授業終了後に、manabaにて理解度確認のための小テストを提出して下さい。
- ・学期中、2～3回の復習テストを実施します。
- ・授業時間内での実習には必ずしも多くの時間を割けません。統計ソフトの準備や復習については、必要に応じて授業時間外に復習して下さい。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% 2～3回の復習テストを予定しています。
レポート	0%
平常点	50% 授業回ごとにmanabaによる小テストが課されます。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

統計ソフト R を用いた、計量分析の実装方法を習得します。

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaを利用したフィードバックを行います。

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

担当教員は、民間企業・公的機関において、量的・質的調査にもとづく報告書執筆や、コンサルティングプロジェクトの経験が豊富です。

### 実務経験に関連する授業内容

教員の経験に基づいて、量的調査の進め方や分析に関して実践的なアドバイスを提示します。

### テキスト・参考文献等

以下のテキストを使用します。オンラインで全文が公開されていますので以下のリンクから閲覧して下さい。書籍としても販売されています。

「データ分析のための統計学入門（原著第4版、翻訳初版第3刷）」  
原題：“OpenIntro Statistics Fourth Edition”  
著者: David M. Diaz, Mine Çetinkaya-Rundel, Christopher D. Barr  
翻訳: 国友直人、小暮厚之、吉田靖  
ISBN978-4-8223-4105-3 / 定価 1,980円(本体1,800円+税10%)

※オンラインでの全文公開は以下からアクセスできます。  
<http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-1-19Open.pdf>

### オフィスアワー

### その他特記事項

・とくに前提条件は設けませんが、これまでに統計的な基礎知識を学習していればなお望ましいです。

### 参考URL

### 備考

---

科目名： 応用社会調査法(質的)／社会調査法(3)(質的調査)

担当教員： 天田 城介

履修年度： 2026 学期： 後期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-SC2-K320

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:55:2

更新者： AA1538

更新日時： 2026-01-15 09:51:5

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

社会調査とは社会の仕組みや人々の生活の実際を把握するためにとられてきた多様なアプローチの集成です。この授業ではそのなかでもとくに統計的、数量的方法によらない「質的調査」、とりわけ、人間や社会、日常の世界に接近する方法の理解を試みます。質的調査は、社会学や社会福祉学、文化人類学、歴史学、民俗学のみならず医学や看護学といった臨床分野においても重要な調査方法となっています。この授業では、質的データの収集や分析方法について学習することを目的として、参与観察法やインタビュー、フィールドワーク、ドキュメント分析や内容分析、会話分析、グラウンデッド・セオリー等を多角的に学びます。

担当者は、医療や福祉や労働の現場において、半構造的面接法を中心とするインタビュー調査やフィールドワークを実施し、老いや障害や病いや貧困などを抱える当事者たちの現実とはどのようなものであるのかを考えてきました。授業の中ではこうした質的調査においてどのような方法を用いてきたのか、その方法を用いることでどのような現実が見えてきたのか、そのような質的調査の醍醐味や困難をお伝えしたいと思います。

**科目目的**

講義目的は、さまざまな質的データの収集や分析方法について解説することです。参与観察法、フィールドワーク、インタビュー等の質的調査の方法、およびライフヒストリー分析、会話分析、ドキュメント分析、内容分析、グラウンデッドセオリー、ビジュアルデータ分析等の質的データの分析法などを多角的に学びます。具体的には、(1) 質的研究とは何かを問い直した上で、その基本概念の検討を通して考察します。(2) 質的研究の「方法」と「方法論」の両側面からその特徴について理解します。(3) 質的研究の方法について、リサーチ・クエスションの設定、研究デザイン、データ収集、データ分析、理論化とモデル化、質的研究論文の執筆形式などから理解を深めます。こうした作業を通じて、さまざまな質的データの収集や分析方法を深く理解します。

**到達目標**

1. 質的研究とはなにかを理解すること
2. 質的調査の方法論を論じることができること
3. 質的調査の方法について、リサーチ・クエスションの設定、研究デザイン、データ収集、データ分析、理論化とモデル化、質的研究論文の執筆様式などから説明できること
4. 質的調査について、記録とコード化、主観と客観、サンプルに対する操作的定義、一般化可能性から説明できること
5. 質的調査の研究倫理について、人間や人々の多様な生活への関心をもち、人権の理解を深め、調査者等の基本的な考え方や責務を理解し、説明できること

**授業計画と内容**

1. 授業の進め方について
2. 質的調査の方法―「質的」とはなにか
3. 質的調査の特徴(1)―質的研究の種類:フィールドワーク、参与観察、インタビュー
4. 質的調査の特徴(2)―質的調査の方法と方法論
5. 質的調査の方法(1)―リサーチ・クエスションの設定、研究デザイン
6. 質的調査の方法(2)―データ収集、データ分析、理論化とモデル化、質的研究論文の執筆形式
7. 質的調査の進め方(1)―フィールドワーク、参与観察法、インタビュー法の事例と方法
8. 質的調査の進め方(2)―会話分析、ドキュメント分析法、言説分析の事例と方法
9. 質的調査の進め方(3)―ライフストーリー法の事例と方法:2つのアプローチ
10. 質的調査の進め方(4)―グラウンデッドセオリー、ビジュアルデータの分析
11. 質的調査の進め方(5)―アクションリサーチ法の事例と方法
12. 質的調査における研究倫理(1)―ラポール、同意と説明、参与観察と距離
13. 質的調査における研究倫理(2)―研究倫理をめぐる困難
14. まとめ―複眼的視点からの質的調査

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

事前学修:授業前に配布された文献を読んでくる、課題を考えてくるなどの予習を行う(週1時間)

事後学修:授業後に学習した社会調査や質的研究に関わる用語等を復習する、自宅課題であるレポート等に取り組み完成させる(週3時間)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	85% 小レポート(45%) + 学期末レポート(40%)で評価します。授業終了後の指定日時までに提出する小レポートを期間中3回実施します。学期末レポートは4,000字以上のものになります。
平常点	15% コメント・ペーパーなどを平常点(15%)とします。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

小レポート(45%)、学期末レポート(40%)、平常点(15%)をスコア化して、厳正に評価します。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
  - ✓ プレゼンテーション
  - ✓ 実習、フィールドワーク
- その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

観察法やインタビュー等で、短時間の実践やフィールドワーク、発表等を取り入れる。

### 授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- ✓ タブレット端末
  - ✓ その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業において使用するパワーポイント資料はmanabaの「コースニュース」等を通じて受講者全員に配布し、「コンテンツ」にも格納することで、いつでも閲覧できる状況とする。また、自主学習が可能なように、その他の資料も閲覧できる環境にする。加えて、manabaの「コレクション」を通じて個別連絡ができるようにし、manabaの「掲示板」を通じて基本情報は共有できるようにする。

なお、合理的配慮等が認められた場合には、ハイブリッド形式での授業運営を行うものとする。

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

担当教員は、質的調査・量的調査など多様な社会調査を継続的に行っています。

### 実務経験に関連する授業内容

ほぼ毎回の授業において、教員の調査経験から導出されるアイデアやアドバイスが受講生に提示されます。

### テキスト・参考文献等

授業内容については資料やレジュメを毎回配布しますので、テキストは使用しません。参考文献は毎回レジュメ等で示します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

---

科目名： 現代社会研究／現代社会研究(1)

担当教員： 天田 城介

履修年度： 2026 学期： 後期

開講曜日時限： 金4

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-SC2-K321

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:55:2

更新者： AA1538

更新日時： 2026-01-15 09:52:2

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

本授業では、社会調査によって資料やデータを収集し、分析可能なかたちに整理していく具体的な方法を考察します。調査目的、調査方法の決め方、調査企画や設計、対象者の選定におけるサンプリング等の方法、調査票や質問紙等の作成、インタビューの仕方など調査の実施方法、コーディング等の調査データの整理について学習していきます。

特に、社会調査(とくに質的調査)における「研究倫理」について、調査者と調査協力者／対象者とのラポールの形成や、個人情報保護やプライバシーの観点から対象者保護について、倫理審査や学会等で設けられている倫理規程、アウトプット方法についても考察します。更には、社会学に求められる研究公正・研究倫理について検討していきます。

担当者は、医療や福祉や労働の現場において、半構造的面接法を中心とするインタビュー調査やフィールドワークを実施し、老いや障害や病いや貧困などを抱える当事者たちの現実とはどのようなものであるのかを考えてきました。授業の中ではこうした質的調査においてどのような方法を用いてきたのか、その方法を用いることでいかなる倫理的課題に直面したのか、その中で調査協力者／対象者の方々といかなる関係を形成してきたのか、どのように自らに自らの成果を公表してきたのか／してこなかったのかについてお伝えできればと思います。

**科目目的**

本授業は、社会調査によって資料やデータを収集し、分析可能な形に整理していく具体的な方法を解説することを目的としています。具体的には、調査の目的と実施環境に応じた適切な調査方法、調査の企画や対象設定、調査項目の具体化や、調査の実施、調査データの整理、分析等各段階における社会調査の一連の過程、方法等を学び、理解する調査の過程で生じる倫理的な問題をも理解することを目指します。

**到達目標**

1. (量的・質的)社会調査の基本的な考え方を理解できる
2. 社会調査の方法を理解できる
3. 社会調査の基本的な技法を修得する
4. 社会調査の研究倫理について、調査者等の基本的な考え方や責務を理解し説明できること

**授業計画と内容**

- 1 授業の進め方について:社会調査法について
- 2 社会調査の倫理と問題意識
- 3 質的研究の方法と手順
- 4 エスノグラフィーの誕生と発展の歴史、フィールドワーク
- 5 調査目的・調査方法と調査方法の決め方
- 6 社会調査の流れ、テーマの決定と仮説の構成
- 7 標本調査とサンプリング
- 8 調査票の作成と実施(質問文の作り方、インタビューの仕方など)
- 9 調査データの整理(ワーディング、エディティング、データクリーニングなど)
- 10 データ分析(コーディングなど)
- 11 質的調査:ライフストーリー研究について
- 12 質的調査における研究倫理(1)ラポール、同意と説明、参与観察と距離、倫理的ジレンマ
- 13 質的調査における研究倫理(2)研究の透明性・公開性と対象者保護の葛藤
- 14 まとめー複眼的視点からの社会調査

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

事前学修:授業前に提示された課題や、文献などの配布物があればそれを考えたり読んでくること(週1時間)

事後学修:授業後に学習した社会調査法に関する重要な用語等を復習する。自宅課題であるレポート等に取り組み提出できるよう、完成させてくること(週2時間)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	85%	小レポート(45%) + 学期末レポート(40%)で評価します。授業終了後の指定日時までに提出する小レポートを期間中3回実施します。学期末レポートは4,000字以上のものになります。
平常点	15%	コメント・ペーパーなどを平常点(15%)とします。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

小レポート(45%)、学期末レポート(40%)、平常点(15%)をスコア化して、厳正に評価します。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート

- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
- ✓ その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

観察法やインタビュー等で、短時間の実践やフィールドワーク、発表等を取り入れる。

### 授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- ✓ タブレット端末
- ✓ その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業において使用するパワーポイント資料はmanabaの「コースニュース」等を通じて受講者全員に配布し、「コンテンツ」にも格納することで、いつでも閲覧できる状況とする。また、自主学習が可能なように、その他の資料も閲覧できる環境にする。加えて、manabaの「コレクション」を通じて個別連絡ができるようにし、manabaの「掲示板」を通じて基本情報は共有できるようにする。

なお、合理的配慮等が認められた場合には、ハイブリッド形式での授業運営を行うものとする。

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

担当教員は、質的調査・量的調査など多様な社会調査を継続的に行っています。

### 実務経験に関連する授業内容

ほぼ毎回の授業において、教員の調査経験から導出されるアイデアやアドバイスが受講生に提示されます。

### テキスト・参考文献等

授業内容については資料やレジュメを毎回配布しますので、テキストは使用しません。参考文献は毎回レジュメ等で示します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

参考URL

備考

---

科目名: Global Sociology／グローバリゼーション

担当教員: 鈴木 恭子

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 火3

配当年次: 3・4年次配当

科目ナンバー: LE-SC3-K401

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:55:2

更新者: AA2534

更新日時: 2026-01-15 12:38:2

### 授業形式

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- ✓ その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

英語 / English

### 授業の概要

グローバルな文脈における、フェミニズムの運動や理論について学びます。

英語で書かれたフェミニズムの初級テキストを読みます。

とくにインターセクショナリティ(交差性)の概念に焦点をあてて、テキストの内容に沿って学習を進めます。グローバル化の時代の人権、貧困や格差、ジェンダー平等などについて、ディスカッションを実施します。

### 科目目的

本授業では、グローバル化の時代におけるフェミニズムの理論と運動について学びます。

### 到達目標

- ・ジェンダーに関わる議論を英語で読めるようになる
- ・ジェンダー平等にかかわる問題について、英語で説明・議論できるようになる

### 授業計画と内容

フェミニズムの視点からみた社会の問題について、体系的に学びます。  
毎週、事前にテキストの該当箇所を読んできて、グループでディスカッションします。  
フェミニズムに関する映像表現を皆で鑑賞し、議論します。

1. Introduction
2. Definition
3. History
4. Film/Reflection
5. Identity
6. Justice
7. TED Talk
8. Education
9. Money
10. Film/Reflection
11. Power
12. Health
13. Film/Reflection
14. Summary

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ・毎週、リーディング課題(英語)があります。
- ・毎回の授業のあとにコメントシートを提出します。
- ・学期中に、Summaryの発表(1回)、Reflectionの発表(2回)があります。
- ・期末に短いレポート課題があります。(1,000 words)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	30% 期末にレポートを書きます。
レポート	0%
平常点	40% コメントシートの提出
その他	30% Summary, Reflectionの発表

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
  - グループワーク
  - ✓ プレゼンテーション
  - 実習、フィールドワーク
  - その他
  - 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

担当教員は、民間企業・公的機関において、量的・質的調査にもとづく調査研究やコンサルティングの経験が豊富です。

### 実務経験に関連する授業内容

教員の経験に基づいて、受講生の主体的な学びを支援します。

### テキスト・参考文献等

テキストについては授業内でガイダンスしますので、事前の購入は不要です。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考



科目名: Visionary Sociology／理論社会学

担当教員: 矢野 善郎

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 月4

配当年次: 3・4年次配当

科目ナンバー: LE-SC3-K402

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:55:2

更新者: AA0328

更新日時: 2025-12-28 10:27:5

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- ✓ 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

この講義は、社会学もたらすVisionにこだわった、英語での参加型講義科目となります。

社会学は、日常生活を変える様々な視点insightsをもたらしてくれる科学ですが、この講義では、なかでも経済学や生物・心理学と社会的な視点insightsとの違いについて考察し、そうした社会学的なinsightsがどのように次の時代の社会を切り拓くvisionsをもたらしているかについて考察していきます。

ただし受身の教壇型授業でなく、特徴として、能動的な参加、応用と発信にこだわりたいと考えています。受講者は、実際にinsightsを自分で用いられるように仲間とのディスカッションなどを通して練習し、最後には自分なりのvisionを、英語を用いたvisionaryな作品(動画等)として発表する先導者Visionaryとなることを目指します。

なお講義部分は、英語で行いますが、できるだけ英語理解の差を埋められるよう、受講者同士(+教員)がバディーとなるような助け合いタイム(そこは日本語も利用可)を設けます。

未来の社会のVisionaryとなるような新しい講義を作ってみませんか。

**科目目的**

社会学に必須の視点Insightsから複眼的思考を養い、社会学がもたらす様々なVisionsについての専門的学識と幅広い教養を身につけるだけでなく、主体的なディスカッションを通して、自らの理論的なVisionを進化させ、それを作品化・発表するコミュニケーション力を身につけることを目的とする。

**到達目標**

社会学に必須の視点Insightsから複眼的思考を養うこと  
 社会学がもたらす様々なVisionsについての専門的学識と幅広い教養を身につけること  
 自らの理論的なVisionを進化させ、それを作品化・発表するコミュニケーション力を身につけること

**授業計画と内容**

## 1. Introduction: Sociological Insights &amp; Visions

Sociological Insights

2. Social Order
3. "Choice" (vs Economics)
4. Explaining Social Actions
5. vs Biological-Psychological Explanations of Behaviors
6. Is "Society" Real?
7. Sociological Interactions and Processes
8. Symbolic Interactionism

Visions (Theories of the Contemporary Society)

9. Reflexive Modernity
10. Habitus and Inequality
11. Social Systems and Communication
12. Civilizing process and Self Control

Your Sociological Visions

13. Your Sociological Visions 1 英語動画作製 or 口頭プレゼンテーション
14. Your Sociological Visions 2

※ 受講者人数, 受講者の理解到達度により, 適宜予定を組み替えることがあります

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

プリント・スライドなどはmanabaにて配布します。授業前にダウンロードして予習してください  
学期末発表のほか、ディスカッションでのネタなどを考える宿題がちよくちよく出ます

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	35% 学期末発表(動画など)を作製し, 実演すること
平常点	65% 授業中に出すディスカッションへの参加, 小課題提出(Manabaなどで提出)
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク
- その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

すべての回でスライド等で授業理解の補助を図ります。manabaでフィードバックを行います

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

プリントを配ります。

### オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

---

科目名: Clinical Sociology／臨床社会学／現代社会研究(6)

担当教員: 天田 城介

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 火4

配当年次: 3・4年次配当

科目ナンバー: LE-SC3-K403

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:55:2

更新者: AA1538

更新日時: 2026-01-15 09:43:4

**授業形式**

すべての授業回について、対面授業を行います。

**履修条件・関連科目等**

2021年度以降の入学生は、本科目は選択必修科目になります。2021年度以降の入学生は、Clinical Sociology、Global Sociology、Visionary Sociologyのいずれかを受講することが修了要件になりますので、どうぞよろしく願います。2020年度以前の入学生も履修可能ですが、2023年度以降は主として英語を用いた科目となっていますので、ご注意ください。

**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- ✓ 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

この科目は、今日のポスト経済成長時代における少子高齢化／人口減少社会を背景に生じているさまざまな現実を踏まえつつ、それらの歴史的・時代的文脈をおさえつつ、それらを臨床社会学の視点ではどのように捉えることができるかを、「英語」を用いて思考していきます。英語を通じて臨床社会学の視点を習得することで、より複眼的かつ多角的に現実を捉えていきます。

**科目目的**

現代社会における少子高齢化／人口減少社会を背景にポスト経済成長時代において生じているさまざまな現実を臨床社会学の視点から解説することを目的とする。また、英語を用いて「臨床社会学」の視点を習得することがより複眼的かつ多角的に現実を捉えていくことも目的にしています。

英語を用いて、臨床社会学の視点で私たちの社会において生じている諸問題／諸現象を読み解くことができるようになることを到達目標とする。

**到達目標**

- ① 超高齢社会／人口減少社会において立ち現れている諸問題・諸現象について経験的データをもとに微細に読み解くことができる。
- ② 当事者たちが直面している問題や困難を臨床社会学の視点から緻密かつ詳細に読み解くことができる。
- ③ 老いや高齢化をめぐる諸問題・諸現象を微細な観察をもとに分析すると同時に、私たちがなすうの社会的実践を考察することができる。

**授業計画と内容**

- 第01回 ガイダンス、臨床社会学の試み・1
  - 第02回 臨床社会学の試み・2——当事者の世界から理解する
  - 第03回 自己のまなざしを形成する社会
  - 第04回 アイデンティティ・ゲーム——必死にメンテナンスされるアイデンティティ
  - 第05回 社会学者もまた自分自身の世界を生きる
  - 第06回 臨床から見える社会・1 「介護殺人事件の世界」を読み解く・1
  - 第07回 臨床から見える社会・2 「介護殺人事件の世界」を読み解く・2
  - 第08回 臨床から見える社会・3 「老夫婦心中事件の世界」を読み解く・1
  - 第09回 臨床から見える社会・4 「老夫婦心中事件の世界」を読み解く・2
  - 第10回 臨床から見える社会・5 「夫の死に気づかぬ認知症の妻の世界」を読み解く
  - 第11回 臨床から見える社会・6 「消えた労働者の世界」を読み解く・1
  - 第12回 臨床から見える社会・7 「消えた労働者の世界」を読み解く・2
  - 第13回 臨床社会学の可能性と困難
  - 第14回 総括・まとめ
- (上記は全て英語にて講義を行います)

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

毎回授業前にその前の回に配布した資料やレジュメに必ず目を通した上で出席すること。また、授業の最後に提示する課題に必ず取り組むこと。加えて、授業で紹介した参考文献等も積極的に読み込むようにしてください。

**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

#### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	85%	小レポート(45%) + 学期末レポート(40%)で評価します。授業終了後の指定日時までに提出する小レポートを期間中3回実施します。また、学期末レポートは4,000字以上のものになります。
平常点	15%	コメント・ペーパーなどを平常点(15%)とします。
その他	0%	

#### 成績評価の方法・基準(備考)

小レポート(45%)、学期末レポート(40%)、平常点(15%)をスコア化して、厳正に評価します。

#### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

#### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

#### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

#### 授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- ✓ タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

#### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業において使用するパワーポイント資料はmanabaの「コースニュース」等を通じて受講者全員に配布し、「コンテンツ」にも格納することで、いつでも閲覧できる状況とする。また、自主学習が可能なように、その他の資料も閲覧できる環境にする。加えて、manabaの「コレクション」を通じて個別連絡ができるようにし、manabaの「掲示板」を通じて基本情報は共有できるようにする。

なお、合理的配慮等が認められた場合には、ハイブリッド形式での授業運営を行うものとする。

#### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

#### 実務経験に関連する授業内容

#### テキスト・参考文献等

授業内容については資料やレジュメを毎回配布しますので、テキストは使用しません。参考文献は毎回レジュメ等で示します。

#### オフィスアワー

#### その他特記事項

#### 参考URL

#### 備考



**科目名: Social Issues****担当教員: 曹 三相**

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 金2

配当年次: 3・4年次配当

科目ナンバー: LE-SC3-K404

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:55:2

更新者: AC8575

更新日時: 2026-01-04 10:23:2

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- 日本語
- ✓ 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)**

English

**授業の概要**

This is a course designed to provide the students with an introduction and overview of social issues. The topics covered include human evolution, culture, social systems, personality development, the nature vs. nurture debate, socialization, deviance, economic inequality, minority and pluralist societies, aging populations, gender issues, modernization, and environmental concerns. Students will be encouraged to critically assess these subjects in relation to their own lives and communities.

**科目目的**

A central objective is to help students refine their abilities as critical thinkers, analytical observers, and effective communicators.

**到達目標**

Students will acquire familiarity with key concepts and approaches developed by scholars and practitioners in social science in order to make sense of our world. It is hoped that by the end of the semester you will find the course to be informative, interesting and enjoyable.

**授業計画と内容**

## COURSE TOPICS AND READING

1. Introduction  
Overview of the course structure, objectives, and foundational concepts.
2. The Beginnings of Life  
Readings: John Perry and Erna Perry, Chapter 2, Contemporary Society.
3. Culture: Product and Guide to Life in Society  
Readings: John Perry and Erna Perry, Chapter 3, Contemporary Society.
4. Group Interaction: From Two to Millions  
Readings: John Perry and Erna Perry, Chapter 4, Contemporary Society.
5. Becoming a Person: The Birth of Personality  
Readings: John Perry and Erna Perry, Chapter 5, Contemporary Society.
6. Deviance and Criminality: The Need for Social Control  
Readings: John Perry and Erna Perry, Chapter 6, Contemporary Society.
7. Mid-term Exam
8. The Great Divide: Ranking and Stratification  
Readings: John Perry and Erna Perry, Chapter 7, Contemporary Society.
9. Minority Status: Age, Gender, and Sexuality  
Readings: John Perry and Erna Perry, Chapter 9, Contemporary Society.
10. Minority Status: Race and Ethnicity (Part 1)  
Readings: John Perry and Erna Perry, Chapter 8, Contemporary Society.
11. Minority Status: Race and Ethnicity (Part 2)  
Readings: John Perry and Erna Perry, Chapter 8, Contemporary Society.
12. Change, Collective Behavior, and Social Movements

Readings: John Perry and Erna Perry, Chapter 10, Contemporary Society.

13. Population, Urbanization, and the Environment  
Readings: John Perry and Erna Perry, Chapter 11, Contemporary Society.

14. Final Exam

### 授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

✓ その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

Students are required to complete the readings prior to class meetings and to come to class ready to discuss them. I expect everyone to participate actively in the discussion of the day. Every student should be able to summarize, analyze, synthesize, and evaluate each assigned reading by addressing the following questions:

- i. What is the author's purpose?
- ii. What is the basic theme(s) or argument(s) of the reading?
- iii. What are the most important historical events, information, concepts, etc. discussed in the reading?
- iv. How does this reading relate to the other readings and to the central themes of the course?

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	40%	Exam will consist of definition of concepts or terms and short essays. Exams will cover the materials presented in lectures, discussions, and readings. You should demonstrate the knowledge you have acquired in the assigned readings and class discussions, as well as your thoughtful consideration and analysis of the material.
期末試験	40%	Exam will consist of definition of concepts or terms and short essays. Exams will cover the materials presented in lectures, discussions, and readings. You should demonstrate the knowledge you have acquired in the assigned readings and class discussions, as well as your thoughtful consideration and analysis of the material.
レポート	0%	
平常点	20%	In order to get the most out of class, you must be prepared when you come to class.
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

Your grade will be based, not on how well you do compared to others in the class, but on the quality of substantive knowledge, quality of analysis, and effective communication demonstrated—in other words, the level of understanding demonstrated. S (100~90点) represents “excellence,” A (89~80点) represents “good”; B (79~70点), C (69~60点), and D (below 59点) indicate that the level of work in the course is below the level expected. Therefore, you should work together and help each other out.

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

✓ その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

Provide comments

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

✓ 実施しない

## 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

Sam-Sang Jo received Ph.D. in international studies from the University of South Carolina. He was visiting scholar of East-West Center in Hawaii, Chinese Academy of Social Science, University of Cambridge, Fudan University, Tohoku University, and University of Tokyo. He was also visiting scholar of East-West Center in Hawaii, Chinese Academy of Social Science, University of Cambridge, Fudan University, Tohoku University, and University of Tokyo. He has taken courses, conducted research in, or otherwise visited for professional or personal purposes, America, Britain, France, Germany, Denmark, Sweden, Austria, Russia, Poland, Hungary, Belgium, Switzerland, Italy, China, South Korea, Taiwan, Hong Kong, Indonesia and Costa Rica. His teaching and research interests cover regional integration, international cooperation, Western European politics, East Asian politics, comparative analysis of Europe and East Asia, and US foreign policy. He is the author of *The Clash of Ideologies: American Liberal Democracy versus Socialism with Chinese Characteristics* (Palgrave Macmillan, 2026) and *European Myths* (Rowman & Littlefield/University Press of America, 2007). His publications have appeared in such scholarly journals as *The Chinese Journal of International Politics*, *Asian Perspective*, *Japanese Journal of Political Science*, *Asia Europe Journal*, *Journal of Contemporary European Studies*, *Northeast Asian Studies* (Tohoku University), *Korea Observer*, *Korean Journal of Political Science*, *中央大学 社会科学研究所年報*, and *中央大学 紀要 社会学・社会情報学*, among others. He has received several merit-based fellowships, awards, grants and prizes.

### 実務経験に関連する授業内容

Sam-Sang Jo is currently teaching at Chuo University and International Christian University as well. He had taught at Graduate School of International Relations, Pusan National University, Graduate School of International Relations and Diplomacy, Beijing Foreign Studies University, Monmouth College and University of South Carolina.

### テキスト・参考文献等

John A. Perry and Erna K. Perry. 2016. *Contemporary Society: An Introduction to Social Science*. (14th Edition) New York: Routledge.

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

---

**科目名: Debate****担当教員: 矢野 善郎**

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 月4

配当年次: 3・4年次配当

科目ナンバー: LE-SC3-K405

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:55:2

更新者: AA0328

更新日時: 2025-12-28 11:27:3

**授業形式****履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

この講義では、異なった立場との違いを理解し、その違いを鋭く言明していくような議論を、広く“Debate”と呼び、それを最終的には英語で行えることを目的として、参加型でトレーニングすることを目指しております。

現代社会では、様々な公的な意思決定、科学的討論、様々な価値観の擁護・多文化共生のためにも、こうしたDebateは不可欠と言えます。この講義では、Debateという議論の特徴やその活用方法を、初歩から実践的に練習していきます。

この講義では、英語ディベートの練習を行うことになりませんが、誤解無く申せば英語科目(という外国語を習得することを第一の目的とする科目)という訳ではありません。試合形式等を通して、英語ディベートの運用能力を徐々にブラッシュアップすることをめざしますが、その準備過程では日本語での説明や打ち合わせなどをすることはまったく問題ないと考えております。また社会学専攻の科目でもあるので、討論の素材に社会的な問題を幾つもとりあげ、社会的な学びであることも目指しております。

講師(矢野)は、30数年にわたり英語ディベート教育・指導に関わってきましたが、その経験から、日本で生まれ育った人間でも、適切に事前に準備さえすれば、英語ネイティブとも対等にDebateできるようになると確信しております。余計な苦手意識を少しでも取り除き、議論を楽しみながら、実際に役に立つような英語運用能力を身につける場にしたいと考えております。

**科目目的**

立場との違いを理解・言明していくような議論“Debate”を最終的には英語で行えることを目的とします。現代社会では、様々な公的な意思決定、科学的討論、様々な価値観の擁護・多文化共生のためにも、こうしたDebateは不可欠と言えます。この講義では、そうしたDebate能力の訓練を通して、様々な意見を交わすことを通して複眼的思考を養い、議論をリードする主体性と社会的なグローバルなコミュニケーション能力を身につけることを目的としています。あわせてDebateという議論の社会的な機能についての専門的学識を身につけ、議論実践を通してとりあげる社会的な問題についても幅広い教養を身につけられることも大きな目的となっています。

**到達目標**

主体性をもって様々な議論をリードし、社会に出てから必要なグローバルなコミュニケーション能力を身につけること。そしてDebateという議論の社会的な機能についての専門的学識を身につけ、議論実践を通してとりあげる社会的な問題についても幅広い教養を身につけ、様々な意見を交わすことを通して複眼的思考を養うこと。

**授業計画と内容**

1. What is Debate? ディベートとは何か
2. Reasoning and Evidence 議論の理由付けと証拠
3. Proving issues 争点の作り方
4. Policy Proposal 1 政策提案
5. Policy Proposal 2
6. Mini Debate 1 ディベート形式にチャレンジ
7. Mini Debate 2
8. Asking Questions 質問力を鍛える
9. Policy Debate 準備
10. Policy Debate 1
11. Policy Debate 2
12. Policy Debate 3
13. World-making 1 新しいコンセプト(世界)を作る
14. World-making 2

※参加人数や、英語などの習熟度などにより、適宜予定を入れ替えることがあります。

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で行う、様々なプレゼンテーションやディベートについて準備・練習してくる宿題や、他人への講評・自身の議論の振り返りの宿題がでることがあります。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	25%	・各人に割り振られたプレゼンテーションやディベート準備 ・各人の実習の適切な振り返り
平常点	50%	・各回の質問・発言の積極性
その他	25%	・グループ活動での受講生各自の貢献の程度 ・グループ活動全体の活発性

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

発表や実習では、利用者にスライド活用を求めます。リサーチ・ICT教育も兼ねています。スライド等で授業理解の補助を図ります。manabaでフィードバックを行います

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

プリントを紙やmanabaを通して配ります。

### オフィスアワー

### その他特記事項

英語力・経験は問いません。英語に自信のない人こそ、ましてやディベート・議論体験したことない人、もちろん歓迎(課題・チーム分けで配慮します)

参考URL

備考

---